

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	一般小売店〔生花〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が減少したことに加え、マスク着用の見直しや桜の開花もあり、多くの人が来店するようになった。卒業、送別の祝いも盛んであり、贈物の商品が例年よりも多く売れている。
	◎	コンビニ（店長）	来客数の動き	・前年のコロナ禍と比較し、明らかに人の動きが活発になっており、それに伴い来客数も順調に回復している。
	◎	その他小売〔ショッピングセンター〕（総務部担当部長）	販売量の動き	・来客数、販売量、単価はいずれも好調に推移しており、新型コロナウイルス感染症に対する意識の変化がみられる。
	◎	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・平年並みではないものの、客足は戻りつつある。
	◎	その他飲食〔ファーストフード〕（経営者）	販売量の動き	・3か月前は前年比でマイナスだったが、今月は前年を大幅に超えている。
	◎	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・政府の全国旅行支援の効果が継続している。新型コロナウイルスの感染状況の改善とマスク着用の緩和などが旅行モチベーションの向上に寄与している。
	◎	旅行代理店（営業担当）	販売量の動き	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着き、企業関係が大きく動き出している。また、個人の客の動きも活発化している。
	◎	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて景気の現状は良くなっており、新型コロナウイルスの感染状況は徐々に落ち着き、新型コロナウイルスの新規感染者数も3月は随分少ない。県や市の公務員のボーナスが元に戻り、歓送迎会も4年ぶりに始まっている。金、土は特に客が多い。
	○	商店街（事務局長）	来客数の動き	・人通りが増えて街でのイベント等が多く開催されるようになった。通行量の増加ほど店舗売上は増加していないものの、今後に期待が持てるようになっている。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・3月になってから、週末のイベントは多くの人出でにぎわった。クルーズ船が3隻も入港し、外国人も訪れるようになり、かなりのにぎわいになっている。
	○	商店街（代表者）	お客様の様子	・コロナ禍による行動制限が緩和された影響から、自由の人が集まれるようになり行動が活発になってきた。売上は前年比で増加し回復傾向にあるが、一方で、仕入単価や必要経費の上昇が続き、電気代の値上げ等もあることから厳しい状況で不安である。さらには従業員への賃金引き上げもあり、今後の企業運営は厳しい状況であると考えられる。
	○	コンビニ（総務）	来客数の動き	・今年に入りコロナ禍は落ち着いている。また、5月から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類へ引下げとなることもあり、消費が動き始めている。前月から来客数が前年を上回り始め、これまでのような客単価上昇による売上増加の構造から、来客数増加による売上増加へと変わりつつある。一方で、商品値上げの影響が、来月より大きくなることが予想されるため、消費動向には注視が必要である。
	○	家電量販店（店員）	販売量の動き	・新生活準備のため、家電やインテリア等の一式購入が増加している。
	○	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・当社の置かれた環境としては、メーカーの増産が大きく寄与しており、それに伴い業績も順調に回復している。
○	その他専門店〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・行動制限のない花見が始まり、客は多く、売上も増加している。	
○	タクシー運転手	来客数の動き	・3月は春の陽気になり、四国遍路の仕事がたくさん入ってきている。また、歓送迎会もあるなどまずまず動いている。3月9日からタクシー料金が上がり、売上も多少増加している。	

	○	観光遊園地（職員）	お客様の様子	・観光客の増加に加え、新型コロナウイルスの新規感染者数の減少に伴い、地元住民の飲食店利用の増加が見受けられた。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・卒業入学シーズンやコンサートなどで旅行に出掛ける人が増えたため、来客数が増加している。
	○	設計事務所（所長）	それ以外	・春休み期間中ということもあって平日でも観光客が増加しており、特に外国人の観光客が目立つようになってきた。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・物価上昇、金利上昇などの環境変化、人口減少の歯止めが掛からないなど、政策対応を間違えば、スタグフレーションの危険性があると考えられる。
	□	一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・物価上昇の影響で節約志向が強まっている状況であるため、売上は不変だが、消費者の買物の頻度は下がってきている。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が前年並みでとどまっている。
	□	コンビニ（商品担当）	それ以外	・原材料費、輸送費、卵の高騰に加え、電気代の値上げもあり、販管費が高止まりしている。
	□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・3月は天候に恵まれているが、20日を過ぎても状況は良くなっていない。物価上昇の影響に加え、身の回りの消費のうち特に食品等の生活費への比重が大きくなったことにより、衣料品に回す金が少なくなっているのではないかと考える。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	販売量の動き	・売上が前年比108%程度で推移しているが、前年はまん延防止等重点措置の期間であったことを勘案すれば、景気はまだそれほど上向いていない。
	□	家電量販店（副店長）	単価の動き	・来客数は前年を下回っているが、物価高騰により商品の単価も上昇しているため、売上は確保できている。
	□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・長納期化が解消されていないため、厳しい状況が続いている。
	□	都市型ホテル（経営者）	お客様の様子	・マスク着用の見直し以後、新型コロナウイルスの新規感染者数が若干増加傾向であることが不安要素である。
	□	通信会社（営業部長）	販売量の動き	・新生活に伴う需要があり、販売数は当初計画どおりの数字が出ている。物価高の影響は余りみられない。
	▲	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・物価高の影響で節約志向が強まっており、それに伴い買上点数が落ち込み、売上は前年割れとなっている。
	▲	スーパー（統括担当）	販売量の動き	・物価高の影響が顕著であり、販売単価は上昇しているが、販売数量は減少している。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・価格上昇のため、客単価が上昇しているが、来客数が減少している。また、外出自粛が終了し、購買先が多チャンネル化、分散化している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・3か月前と比べて状況は良くない。コロナ禍が落ち着き、客が戻ってくると思ったが、思うようには戻っていない。百貨店にも出店しているが、まだ厳しい状況である。
	▲	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新車増産に伴い登録台数は増加しているが、受注台数が前年比90%程度となっている。
	▲	通信会社（社員）	お客様の様子	・物価高により、財布のひもが固くなっている。
	▲	競輪競馬（マネージャー）	販売量の動き	・物価高の悪影響が続いており、遊興に回せる余裕資金が減ってきている。
	▲	美容室（経営者）	それ以外	・スタッフが新型コロナウイルス感染症に感染したため休業せざるを得なかった。
	×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・外商での売上が2か月連続で前年同月を大きく下回る。
企業動向関連	◎	—	—	—
(四国)	○	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・外食向け製品の出荷量が徐々に増加傾向にある。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在バイオマスの原料である竹資源の供給が増加していることから、景気は良くなっていると判断した。

	○	通信業（総務担当）	それ以外	・新型コロナウイルス感染症の対策が前提ではあるが、社外イベントやボランティア活動について、前年度に実施されなかった取組が再開される傾向が続いており、従来の形に戻りつつあるとみられる。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・観光客の増加に伴い、観光業や飲食業の来客数も回復傾向であり、売上は回復している。また、公共工事関係の受注状況も堅調である。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・直近の卸売市場の需給動向は変化が少ない。コロナ禍で消費需要が変化し、生鮮品よりも冷凍食品の需要が高まっている。冷凍食品の主たる原材料は外国産であり、卸売価格への反映が鈍いことが憂慮される。
	□	食料品製造業（商品統括）	それ以外	・金融不安や世界的な業績悪化の懸念を受け、消費行動の縮小が想定される。
	□	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・前年は4月から値上げを告知したため3月に駆け込み発注があり、売上が大幅に増加した。今年3月の売上は前年比では減少したが、新型コロナウイルス感染症発生前と比べて受注額は増加している。特に関東地区を中心に全国都市部の小売店からの受注が増えており、人出が戻っている。また、コロナ禍の反動もあり、消費者の購買意欲は旺盛になっている。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船関連を中心に受注や販売量は安定している。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・公共事業の発注量及び受注量は、前年比1割以上減少しているが、これは前年度が異常に多かったためであり、景況感にマイナスの影響はなく、逆に適正規模に近づいたと評価する者も少なくない。前年度のような事業量の拡大が継続できないことは想定内である。民間事業では、資材高騰により坪単価が2～3割高くなっており、需要は停滞したままであるが、少し事業所関連で開発の動きが見られる。急激な好不況が生じないように安定的な公共投資や民間開発誘導施策を望んでいる。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・最近の受注数が少な過ぎる。
	□	輸送業（経営者）	受注量や販売量の動き	・世間ではどこを見ても人手不足であるが、最終的には、立場の弱い中小企業にしわ寄せがきている。
	□	輸送業（営業）	受注量や販売量の動き	・原材料価格の高騰による消費財や食料品の値上げが相次いでいるなか、値上げ前の駆け込み需要による取扱物量の増加がほとんど見受けられないことから、消費者の購買意欲の低下が強いのではないかと考える。また、地方圏においては、景気の回復に遅れが生じている。
	□	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・観光関連以外の全国展開している客先は、例年3月と比較しても広告宣伝費が削減されている。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・取引先の利益状況などをみると大して変化がみられない。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・材料の価格高騰がようやく収まり、販売価格の改定が完了したが、住宅市場の落ち込みは回復せず、受注が前年比よりも落ち込み傾向にある。加えて電力料金のアップが利益を圧迫している。
	×	—	—	—
	◎	—	—	—
雇用 関連 (四国)	○	人材派遣会社（営業）	求人数の動き	・年度末の人の入れ替わりが多く、欠員補充として求人募集を掛けるものの、条件に合う人材の確保に苦慮している。特にコロナ禍が落ち着き、県内外から人の動きが増加しているなかで、観光施設や集客の多い公共施設のサービス要員などの人材確保が厳しい状況である。
	□	職業安定所（求人開発）	それ以外	・3か月前と比較し、新規求職者数は増加、有効求職者数は微減となっている。これは、有効求人倍率は微増したことにより、就職率がやや低下したためである。
	□	民間職業紹介機関（所長）	周辺企業の様子	・採用に意欲的な企業が目立ってきている。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣会社に登録するスタッフが少なくなっており、人材確保のための経費が発生している。

▲	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県庁所在地ではない小規模地方都市では、特に飲食・サービス業関係で、若年労働者が不足しており、時間帯や曜日によってはスタッフが見つからず、時短営業や休業となるところが複数見受けられる。コロナ禍で働き手は自分に合った就業先を選択しており、人員が充足するには時間が掛かる見込みである。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民間の広告が明らかに減少している。
×	—	—	—